



『ぼくの兄ちゃん：大分県中津弁版』 好学社

作・絵：よしながこうたく／翻訳 中津市立小幡記念図書館/監修 ラジオパーソナリティ高橋ともみ

01

「こうた……先 行け」
「に、兄ちゃん おさんでっちゃ……」

02

ぎゃおー
「うわあ！ でたー」
「まってちゃ、兄ちゃん!!」

03

「おいていくとか わりいっちゃ……」
「お前ん弱虫を 良うしちゃうと 思うたんじやら」
ぼくん名前は こうた。兄ちゃんの弟だ。
「グズグズなくなちゃ！ オレみてえな ついい男にやあ なれんぞ」
兄ちゃんの名前は たくや。ぼくん兄ちゃんだ。

04

そん夜んこつ……。
「おい、おきい！ おきいっちゃ」
「う～ん。 どげしたん、兄ちゃん」
「あんてんじょうん もよう……、お化けやしきで みらんやったか？」
ぼくは しっちょう。

兄ちゃんが ほんとは こわがりやっちゅうことを。

「ただん もようやん」

「いいき 電気 つきいちゃ！」

05

「いいか、オレが ねむっまで、こうた みはっちよけよ」

「なし ぼくが……」

「弟なんやき あたりまえやろうが」

すきで 弟に なったんやねえんやけど。

「オレが ねてか、電気 消しちよけよ」

そげいうて、兄ちゃんは ぐうぐう ねてしもうた。

06

そげなんこつが なんにちも つづいた。

「こうた、はよ たべんと 学校ん ちこくすつで！」

「やけんが、ねむて一んに」

兄ちゃんのせいで、ぼくが お母さんに おこられよう。

「はよ ねらん子は、おばけん つれちいかれるんのんで！」

「兄ちゃんが おばけん つれちいかるらあ いいんじやら」

「なんちや！」

きょうも 朝から 大ピンチ……。

だれも ぼくん みかたは してくれん。

まさに しめんそか。

07

学校が おわって うちに かえってか、

「朝は おこって わりかったのう」

そげいうて、兄ちゃんは ぼくに クレヨンを わたした。

「てんじょうん もよう、えーらし かきかえちくれよん」

「……ふん。自分で かきやあいいやねえで」

「こうたんほうが 絵が うめえけん かいちほしんじやら！」

なし 兄ちゃんは、こげ ワガママなんやろう。

やけんが、ほめられてか、

ぼくは ついつい かいてしもう。

くそう、兄ちゃんめ。

08

これで ひとあんしん。さあ ねよっと。

「こうた こうたっ！ おきれ」

「……またあ？ ちゃんと うもう かいちょうやろ」

「お前のえが うますぎるけん、おばけが とびだして みゆんのんじやら！」

「いいかげんにしてっちゃ……」

「いいけん みちみいつ」

もう たえられん。

「おばけさん、こげなん兄ちゃんとか つれちいってください！」

09

「はーい、つーれーちーくーでー」

「うわあ、ほんとに でた！」

10

「お母さーーーん!!」

兄ちゃんが まっ先に おらんだ。

「こうたが あげなん絵 かきぞ」

「兄ちゃんの せいやんか」

おばけに がしっと つかまえられた。

兄ちゃんとおってから わりいこと ばっかりっちゃ。

「ねらん子 ふたり、ぐっひっひ。おばけの世界へ ごしょーたいー」

11

おばけは ヒョンヒョン とんじいった。

「お前たちを おばけん 仲間に しちゃろう」

「ぼくは いややけん！ 兄ちゃんだけん しちよくれ」

「こうた、自分だけたすかろうとか、ずりいぞ！」

でんが、おばけは しらんふう。

「きっと 気に入る、だいじょうぶ」

12

ヒュー、ドロ、ドン！ ドロ！ ドン！ ドン！

「あれーっ！ これが おばけのおやしき!？」

兄ちゃんが うれしそうに おらんだ。

「ようこそ、おばけの樂園 おばけの世界へ」

13

「ほら、すいちょう おばけん なっちみ」

おばけたちが うとーて おどる。

「すげえ、とぶつど。 こうたも いっしょに とぼうや！」

「いいよ ぼくは。こええけん」

「みちみい！ 目から ビームが でっぞ!!」

「いてえ、いてえっちゃ、兄ちゃん！」

だれか 兄ちゃんを とめて……。

14

「おばけが こげー おもしろいっちゃあ おもわんかったの！」

「ぐっひっひ。ほんなら、もっと おもしろいところん いこうや」

兄ちゃんが くれえほうに いってしもう。

「こうた一、おいてくどー」 どんどんどん するするするする。

「に、兄ちゃん そっち いってか わりいよ！」

15

「うわーん。また ぼくを おいてくんやなー!？」

兄ちゃんは、なし いっつも ぼくのゆうこときいてくれんのんか。

「いいけん お前も こっちこいつちや〜」

「兄ちゃんが こっちに かえってきってつちや」

なみだが じょんじょんじょんじょん でちきた。

「弱虫は いらん……」

「弱虫は おもしろねえ……」

気がついてか、ぼくは おばけにかこまれちゃった。

「た、たすけて、兄ちゃーん！」

16

そんな時じゃら。

「こうたを いじむんな!!」

兄ちゃんの声が ひびいた。

「兄ちゃん!! なしかえ……」

「あたりまえやろうが。オレは お前ん兄ちゃんなんやき」

兄ちゃんが、もどっちきちくれた。

「おばけ、やっぱ 弟と 家に かえらしちくりい」

「わかった。かえらする、かえらすつよ……」

すげーな、兄ちゃん。

17

兄ちゃんは おばけを こわがらんごとなった。

よーやっつと よう ねらるつ、そげ おもうたんに……。

あれいらい 夜になってか おばけが 遊びんくるごつ なったんよ。

「やっほ〜、たくや。また じまんのビーム みしちくりい」

「よっしゃ! こうたも ねちよらんで おきい!!」

神様、ぼくは いったい いつまで兄ちゃんの弟なんやろうか……。

